



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



主日の説教

今日のみことば

聖家族 B年 (2023年12月31日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：創世記 15章1－6節、21章1－3節

第二朗読：ヘブライ人への手紙 11章8、11－12、17－19節

福音朗読：ルカによる福音書 2章22－40節

主に^{ささ}献げる

今日の朗読箇所は、幼子イエスさまを神殿で^{ほうけん}奉獻した時の出来事です。22節の「彼らの^{きよめ}清めの期間」に注目してください。これは、産後の母親の清め（レビ12章2－8節）と、幼子イエスの清めと聖別を意味していると考えられます。

母親の清めについては、男児の場合は出産から40日後、女児の場合は80日後でした。そして、清めの期間が終了すると、「^{やまぼと}山鳩一つがいか、^{いえぼと ひな わ}家鳩の雛二羽」を^{さいし}祭司に献げました（レビ12章8節）。

しかし、自分から^{せいがん}誓願して神に^{つか}仕えるために聖別されるナジル人の^{びと}聖別の^{きてい}規定では、清めの期間に「^{やまぼと}山鳩二羽か、または家鳩の雛二羽」を^{ささ}献げなければなりません（民6章10節）。そして、ナジル人として^{まんりょう}聖別した期間が^{まんりょう}満了したら、^{かみ}神殿に来なければなりません（民6章13節）。その時、祭司が祝福の言葉を^{とな}唱えました（民6章24－26節）。

以上の^{りつぽう}律法の^{はいけい}規定を背景に考えますと、『ルカによる福音書』の作者は、「彼らの清め」という言い方を使って、1. マリアの母親としての産後の清めと、2. 幼子イエスさまをナジル人^{かき}と重ね^あ合わせて、ナジル人としてのイエスさまの^{せいべつ}聖別を考えているのでしょう。

そうしますと今日の朗読箇所は、単に^{たん}律法の^{しだが}規定に従う幼子の^{せいべつ}神殿奉獻を伝えるだけではなく、イエスがナジル人のように「主に^{ささ}献げられた^{せいなる}聖なる者」であることを^{しめ}示そうとしているのだと考えられます。

このことは同じ22節の「^{あき}両親はその子を主に^{ささ}献げるため」からも明らかにになります。というの

も、生まれたばかりの子どもを神殿に連れて行く規定は律法にはなかったそうです。しかし、ナジル人の聖別では神殿に献げられなければなりませんでした。例えば、ナジル人であるサムエルがハンナによってシロの聖所に連れていかれたのと同様です(サム上1章22、24節)

こうして23節の「主のために聖別される」がいきます。ここの原文を直訳すると、「主に聖なる者と呼ばれる」です。お告げの場面の「生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」(1章35節)が背景にあるのでしょうか。このように天使ガブリエルの預言の言葉は実現していきます。

最後に、36節に登場する「アンナ」に注目してください。『ルカによる福音書』1-2章に登場する主要人物たちの中でマリアとヨセフを除いては、すべてが老人だというのは興味深いです。ザカリアとエリザベトは子どもをつくれぬ年寄り(1章7、18節)、シメオンも死の間近な人物(2章29節)です。アンナは84歳でした。これらの登場人物は旧約の時代が終わりつつあることを暗示しているのではないのでしょうか。時代は若い、マリア、ヨセフ、幼子イエスへと引き継がれていくのです。もっとも、絵画の世界ではヨセフは老人として描かれます。それは「男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった」(マタ1章25節)を忠実に守るためには、ヨセフは生殖が衰えた老人でなければならないと考えたからです。

イエスさまの誕生物語には、いろいろなタイプの人物が描かれます。幼子イエスさまについて語りだす人々は、羊飼(2章17節)とアンナです(38節)。賛美する人々もいます(ザカリア、エリザベト、マリア、羊飼、シメオン、アンナ)。いろいろな人生を織り交ぜながら、救い主は誕生したのです。

信徒総会のお知らせ

1月21日(日)

年間第3主日

ミサ時間：7時(修道院のミサ)、9時半

- 9時半のミサ後に信徒総会、新年の集い、新成人お祝い。
お茶とケーキを用意しています。
- この日は、8時半のミサはありません。